

達成度テスト（基礎レベル）（仮称）と達成度テスト（発展レベル）（仮称）の関係について

達成度テストの基礎レベルと発展レベルの両者は、高等学校における学習成果の達成度を測定するという機能の点で共通するが、以下のとおり経緯、目的、主たる対象者の範囲、評価対象とする教科・科目の範囲、評価方法等において異なっている。

1. 経緯

（基礎レベル）

- 高等学校や生徒の多様化が進展する中で、高校教育の共通性を確保することが必要との考え方のもと、高校教育の質の確保・向上を図るための手段の一つとして構想。
- 全ての生徒が身につけるべき資質・能力（コア）のうち、客観的な評価の対象としやすい基礎的・基本的な知識・技能及び基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決する能力（思考力、判断力、表現力等）の一部について、高等学校全体としての共通の水準に基づき評価するための新たなシステムとして位置づけ。
- 生徒が、自らの高校教育における基礎的な学習の達成度の把握及び自らの学力を客観的に提示することができるようにし、それらを通じて生徒の学習意欲の喚起、学習の改善を図ることを目的とする。

（発展レベル）

- 大学入学者選抜のための共通テストである現行の大学入試センター試験の課題を解決するとともに、各大学における多面的・総合的に評価する入学者選抜への転換を促進するための手段として構想。
- 大学入試センター試験は、大学に入学を志願する者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを重視した結果、高等学校学習指導要領の選択範囲の拡大に対応して試験科目数が増加、細分化するとともに受験方法が複雑化し、大学教育に必要な能力の判定や運営面に課題。
- これからの大学教育を受けるために必要な能力の把握を主たる目的として、このうち知識・技能及びこれらを活用する力の測定を重視。

2. 基礎レベル及び発展レベルの関係について

※ 両者の目的、主たる対象者の範囲、評価対象とする教科・科目の範囲、評価方法等については、別紙「達成度テスト（仮称）の在り方について」参照

達成度テスト（仮称）の在り方について

	達成度テスト（基礎レベル）（仮称）	達成度テスト（発展レベル）（仮称）
目的・活用方策	<p>○生徒が、<u>自らの高校教育における基礎的な学習の達成度の把握及び自らの学力を客観的に提示することができるようにし、それらを通じて生徒の学習意欲の喚起、学習の改善を図ること</u></p> <p><上記以外の活用方策></p> <p>○結果を高等学校での指導改善にも生かすこと</p> <p>○推薦・A○入試や就職時に基礎学力の証明や把握の方法の一つとして、その結果を大学等が用いることも可能とすること</p>	<p>○大学及び大学入学志願者が、<u>これからの大学教育を受けるために必要な能力</u>（「生涯学び続け、主体的に考える力」等）<u>について把握することを主たる目的とし、このうち大学入学志願者に求められる基礎的・基本的な知識・技能及びこれらを活用する力の測定を重視</u></p> <p>○<u>大学入学者選抜の基礎資料</u></p>
対象者	<p>○希望参加型</p> <p>※ <u>できるだけ多くの生徒が参加することを可能とするための方策を検討</u></p>	<p>○<u>大学入学志願者</u>（転学・編入学希望者を含む）</p> <p>※ <u>大学で学ぶ力を自ら確認したい者</u>（大学在学者や社会人等）の受験も可能</p>
内容	<p>○実施当初は<u>国語、数学、外国語、地理歴史、公民、理科を想定</u>（選択も可能）。</p> <p>○<u>高等学校段階で共通に求められる基礎的・基本的な知識・技能を測る。知識・技能の活用力を測る問題も含める。教科を融合した問題を含めることも検討</u></p> <p>※ <u>問題の性質としては、学習の達成度を測るものとし、選抜的なものとはしない</u></p> <p>○各学校・生徒に対し、<u>成績を段階で表示</u></p> <p>※ <u>各問題の正誤や正答率等も表示</u></p>	<p>○<u>必履修の教科の範囲を超えて大学での学修の基礎となる教科・科目についても測定</u></p> <p>○<u>大学入学志願者に求められる基礎的・基本的な知識・技能及びこれらを活用する力を測るものとし、「教科型」「合教科・科目型」「総合型」の問題により構成</u></p> <p>○各大学及び受験生に対し、<u>段階別表示の他、標準化点数、百分位等の成績データを併せて提供</u></p>
形態	<p>○多肢選択方式を原則としつつ、一部記述式も検討</p>	<p>○当面は多肢選択方式により知識・技能を活用する力を測定する出題を充実。記述式については、専門的・技術的に検討</p>
実施方法	<p>○在学中に複数回（例えば年間2回程度）、高校2・3年での受験を検討</p> <p>※ <u>高校1年からの受験も可能とするか検討</u></p> <p>○年間の実施時期は、夏から秋までを基本として学校現場の意見等を聴取しながら検討</p> <p>○実施場所は、高校（学校単位）、都道府県（個人単位）ごとに会場を設ける方向で検討</p>	<p>○当面、1回の試験を1日で終わることを前提に、年2回の実施を検討</p> <p>○年間の実施時期は、高校教育への影響を考慮しつつ、高校・大学関係者等で協議を行うことが適当</p> <p>○実施場所は、原則として大学において会場を設定</p>
その他	<p>○「高等学校卒業程度認定試験」と統合する方向も含めて検討。</p> <p>※ <u>高等学校卒業程度認定試験と単に統合するのではなく、両制度の趣旨を踏まえたテストの在り方等、多様な観点から検討</u></p>	—

※実施に向けた詳細な制度設計は、今後、一体的に検討。